「指で紡ぐ愛」読んで思い出すのは……

「指で紡ぐ愛－グチもケンカもトキメキも－」を一晩で一気に読み終えた。日本で「前例のない盲ろう者大学生になり、前例のない盲ろうの大学教員になられた」福島智先生（東京大学）の、指点字の通訳・介助者の一人でもある奥さんの著書である。

福島先生については、時々マスコミにも登場してるので、ご存知の方も多いと思う。最近では、ＴＩＭＥ誌「２００３年アジアのヒーロー」として、松井秀喜、坂本龍一、オノ・ヨーコ、朝青龍と共に、日本の５人に選ばれている。

日本の盲ろう者の現状、福島先生のポシテイブでエネルギッシュな思考と生き様、通訳・介助者の実情、指点字とは何か、寄り添う妻の生き様等々は、所々にユーモアを感じる文章もあり、購読をお勧めします。

マスコミで福島先生の最近の様子を見聞する時、いつも金沢大学のＫ教授に結びつく。

私が勤めて間もない時に出入りしてくれた最初の学生が､現在金沢大学のＫ教授である。

金沢を家内と訪れた時に歓待していただいた席の帰途に、１Ｆ下のフロアで飲んでいた当時金沢大学助教授の福島先生等と偶然お会いし、同席させていただいた（福島先生との話の内容より指点字通訳の見事さが、今も鮮明に記憶している。その折りのスナップ写真が我がアルバムにも）。

このＫ教授こそ、福島先生を金沢大学助教授として招いた人である。Ｋ教授によれば、日本で前例のない盲ろうの障害のある人を大学教官に迎えることを、教授会で理解させ、説得するのが大変だったとか。まして、第三者である通訳・介助者が教授会の席に同席することは可能かが、大きな難問だったとか。

福島先生は、その後金沢大学から東京大学に移られたが、Ｋ教授なくして今の福島先生もなしとも云えそう。それだけに、その折りのＫ教授の熱意と逞しさに敬服するし、こうして日本の障害児教育界をリードしてくれている存在になっていることは、嬉しい限りである。

それだけに、今後も若い人達との出会いを、大切に考えて行きたい。

（Ｋ教授と私の繋がりの詳細は､ＨＰのバックナンバーの「マスコミ等コメント関係 2003 年 05 月 18 日 重症児研究と生理指標」を参照いただきたい。）

「指で紡ぐ愛」：光成沢美著。講談社。1500 ＋税。

（2003 年 11 月 04 日　記）